

小金井雑学大学

だより

第12号

平成12年2月25日発行

二周年記念講演

『介護保険』をテーマに

小金井雑学大学は、平成十年の三月に開校式をし、この三月で二周年を迎えます。講義はすでに四十三回を数えました。通算して約二千五百人の受講生が参加したことになります。教授として参加していただいた方も四十人を超えました。

講義の内容は幅広く、健康・地球環境・文学・暮らし・自然・食べ物・歴史・経済・冒険・音楽等々かなりバラエティに富んだものとなっています。まさに雑学大学の名の通りですが、内容はかなり聴きごたえのあるものが多く、受講生の知的レベルを満足させるものとなっているのではないでしょう。

小金井雑学大学では、その時のタイムリーな話題も講義で取りあげるようにしていますが、二周年記念講演にはこの春からスタートする介護保険をテーマに取りあげました。

四月から始まる介護保険制度で

は、市町村が保険の事業者になります。事業者になる立場から、これまで独自に介護保険制度への発言を続け、最近『介護保険をどうする』という本を出版した武蔵野市の土屋正忠市長を教授としてお迎えすることになりました。

土屋市長は、大学で地方自治について講演をしたり、またいろいろな場でパネルディスカッションなどに参加したりと論客ぶりはよく知られている方です。テーマはまさに自治体の課題となっていることですから、説得力のある講演を聴くことができるでしょう。

東京生涯学習ネットワーク

の動き

約三十団体で作った東京生涯学習ネットワークは、来年度の事業の計画を作成中です。年に一度の学習フォーラムの開催、二回程度の講演会の開催。来年度は初年度です。各団体の紹介用冊子な

小金井雑学大学2周年記念講演

『いよいよスタート介護保険』

教授 土屋正忠氏
(武蔵野市長)

3月19日(日)
午後1:30~2:30

小金井公会堂C室

ど作成予定です。学習フォーラムは、五月六日(土)に国分寺Lホールにて開催予定です。

又、特に研究課題としているのはインターネットを活用して、各学習グループの情報提供をしていくことで、新年度はどのようにしたら可能かを検討していきます。さらに、非営利活動法人(NPO法人)の認定申請もしており、認定されることにより、市民団体として社会的な認知がされることにより、活動も深みが増していくこととなります。

第四十回講義 十二月五日

『慢性病の治療の秘訣』

―アトピー喘息など―

教授 師岡孝次氏

慢性病の治療の秘訣として、余り世間に知られていない部分の話をしたと思う。

姿勢はちよつとしたことで非常に大きな影響を与えることがあり、姿勢を良くすることは健康の基本である。足を組んで座る場合も右と左を交互に組むようにして、片方に偏らないようにすべきである。左右に曲がる(側わん)になると、内蔵への圧力が一方的にかかり、長年同じ圧力をかけると、問題が起きてくる。荷物を持つ場合も、いつも右手では背骨が右に曲がるので、長年継続すると癖がついてくる。

同じ姿勢を続けて、右肩が下がる。右の骨盤が上がり風邪を引きやすくなったり、左肩が下がることで消化器系統が悪くなったり、という症状が現れる。

アトピーなども副腎皮質ホルモンを出す背骨の部分に影響があって、症状が出ることもある。アト

ピーの例では、姿勢を悪い人だけ集めて、姿勢を直すことでアトピーが治った例もある。治療には剣道や華道を二、三か月続けたり、

右肩下がりがだったら、徐々に右が上がるように軽い体操を続ける。

全部ではないが、九〇％位は姿勢を直すことで治る。慢性病でも高血圧の場合、脳に行く動脈をまっすぐにすると全員治った。姿勢はいきなり直すのではなく二、三か月かけてゆつくり直す。

肩こり、腰痛も姿勢が悪いことからなることが多い。腰骨の近くを神経が通っているので、神経を圧迫すると腰痛になったりする。

めまい、しびれなど全部姿勢と関連する。姿勢だけではないが姿勢を直すことで相当の病気が治る。透析が治った例もある。正しい姿勢をすると脳が正しい指令を出すといわれている。

好きな体操を何でも良いから、自分の体型に合わせて続けることが良い。長時間使ういすは高さも変えられるものを選ぶと体調に良い。更に心のプラス志向も大事である。

第四十一回講義 十二月十九日

『歌はジャンルを越えて』

―懐かしい叙情歌も―

教授 星野正行氏

世間では、クラシックが上位で歌謡曲が下にあるかのように見られることもあるが、私自身はクラシックでも、また歌謡曲でもそれぞれ三人の先生に師事した経験から、それぞれの役割と歴史の違いや、声の出し方の違いなどあるものの決して上下の関係のものではないと思っている。

私の仕事は、音楽とは関係のない職場であるが、かつて東京声専音楽学校(現昭和音楽大学)に学び、クラシックでは、下八川圭祐氏、ドイツ人のマンフリット・グーリット氏、プッチーニの弟子ガエタノ・コメツリー氏に師事し、様々な舞台を経験した。オペラだけにとどまらず、東本願寺で音楽法要なども経験することが出来たのは、自分にとっても良い経験であった。

その後、歌謡曲では、江口夜詩氏、利根一郎氏、村沢良介氏に師事した。しかし、クラシックを勉

強していて声の出し方を勉強していたために、かえって歌謡曲には向かないと言われた。

もともと音楽とは、楽器を初

め、何かを伝達するために使われたものが、次第に楽器も発達し、

歌も変化を遂げてきたものである。クラシックはイタリアやオーストリアの西欧が発祥の地で教会がその媒体となり、声の出し方も発達してきた。日本は花町から生まれたために、役割も違っていたようである。それでも日本では、歌い手が最初は音楽学校を出た人が多かったため、クラシックに近い歌い方であったが、次第にジャズや流しの影響が出てきた。それとレコード会社が売れる歌を作り

たがることもあって、歌いやすくなねのしやすい歌が好まれるようになった。歌謡曲では持つて生まれた個性を大事にするようになり、地方の出身の方が良いとまで言われた。テノールやソプラノのような声の分類はないし、クラシックでは特に嫌われるハスキーな声も好まれるなど声の違いも大きい。それぞれの良さと思うべきであろう。

第四十二回講義 一月十六日

『苗字のあれこれ』

教授 坂内龍雄氏

一・現在姓名、氏名、名字、苗字が渾然として使われている。

姓名は、大和朝廷頃の位階職階を現す公称或は藤原や橘のような賜名で、勝手に変えたり名乗ったりできないものであった。

氏名は、血族名の私称であつたのが、そこに属する一団の人々の名に広がり、いわゆる苗字の始まりとなった。一方、職種名の〇〇部（渡部わたしべ・膳部かしわでべ・服部はとりべ等々）の呼称が、時代の緩みで姓名の忌寸（現称忌）や村主等々と共に世襲の家系を示すところから家名へと転化していった。

名字とは、土地という意味のミョウト、其処を保有・差配している者の字（アザナ）を冠してナアザナと言っていたのが、早々音読みのミョウジに変わった上、名田を包攝しての私領である莊園の発生進展と共に多くの氏称が簇生した。その後の文化・来住の増進に伴い土地に関わつての名字の

呼び名では不適切だと、苗字に置き替えられ、江戸幕府は苗字帯刀とて氏称を特権化したことで皮肉にも、苗字が普遍化することになった。

明治八年、全国民必称令により三十万になんなんとする苗字が現出される。本日は一般的慣用に随つて苗字と記したが、私としては名字を以てメイジと致したく思っている。

二・日本の地理的特異性から苗字の分布状況は多彩な偏在地方性を示している。然し、累代居住の近次急激な減少化と一代ごとでの頻転などで、個々の苗字の祖源地出自地を今の内に社会経済史的にも追求解析して記録しておかないと取り返しのつかないことになることと憂慮している。更には日本人としてのルーツを探る上からも文化・形質両人類学的視点も加えて地方史・周辺民族誌にも当り、家系史探索検索に資したいものと夢を描いている…。

第四十三回講義 二月六日

『健康日本21—21世紀に

おける国民健康づくり運動』

教授 長野みさ子氏

21世紀を目前にして、少子高齢社会を乗り切るために保健・医療・福祉の分野での体制整備の動きが急である。この四月からは介護保険がスタートする。これは今までの福祉施策が税で賄われてきたのに対して、介護に保険が導入されるという点で新しい施策と言える。それと同時に、この介護保険が財政破綻をきたさないようにするためには、医療・保健の分野において、出来るだけ介護を必要とする人を少なくするという当面の目標が見えて来た。医療に関しても、年々増加の一途を辿る医療費を抑制するために、医療の受け手の意識改革とともに、介護保険や健康づくり施策に依存するところも大きい。その意味で、「健康日本21—21世紀における国民健康づくり運動」がどのくらい効果上がるかが、これからの高齢社会の運命を左右することになると言つても過言ではない。

こういう当面の事情を背景にして、「健康日本21」の基本理念としては、すべての人が健康で明るく元気に生活できる社会を実現するために、壮年死亡の減少と寝たきり、痴呆の期間の短縮（健康寿命の延伸）を掲げている。そして施策としては、主に健康を増進し、発病を予防する「一次予防」に重点を置き、がん、循環器病等の生活習慣病やその原因となる生活習慣の改善に関する対象分野を設定し、二〇一〇年までに達成すべき具体的な目標を定めて、行政のみならず、広く民間団体の積極的な参加協力を得ながら、一人ひとりの国民が主体的に取り組める健康づくり運動を総合的に推進することとなっている。

この「健康日本21」計画策定と平行して、医療の受け手としての国民が、よりよく生きることを目指して、「死とどう向き合うか」ということも非常に重要な課題である。その基礎としての「かかりつけ医」等を推進するための「地域医療システム」の構築も準備が開始されている。

今後のカリキュラム

3月 5日「小笠原流礼法の起源と現代のマナー」 川上菱玉氏（小笠原流礼法総師範）

②場所変更－公民館本館A B室（福祉会館3階）

3月19日 小金井雑学大学 2周年記念講演

「いよいよスタート介護保険」

土屋正忠氏（武蔵野市長）

③時間場所変更－小金井公会堂C室、午後1：30～2：30

4月 2日「この世こそ天国－大峰山奥駆け修業に見た生命－」 半田多喜男氏（ライター）

4月16日「葬儀に関するあれこれ」

秋田林西氏（株天法 社長）

5月 7日 （史跡めぐり②－北側を中心に－） 白井康敬氏（JASS運営委員）

5月24日 50回記念講義

「（仮）原子力の話」

河田 燕氏（成蹊大学教授）

・メイン教室は小金井工業高校会議室です。学校の都合により、場所が変更になることがありますのでご注意下さい。（工業高校へはスリッパをご持参下さい）

時間は午後2時～4時です。

・学生登録は、年会費2000円です。平成12年度（4月～13年3月分）の登録会員を受付けております。登録されますと、学報やカリキュラムなどお送りいたします。

・前の講義の資料が残っているものもありますので、ご希望の方は事務局までお声をおかけ下さい。

・教授を募集しております。自薦他薦いずれでもけっこうです。

編集後記

早いもので、小金井雑学大学もまもなく二周年です。五月には講義が五〇回になります。当初は理事の人脈を生かして教授をお願いすることが多かったのですが、最近では自薦他薦の方が増えてきました。しかも、かなり聴きごたえのある講義をされます。知識の豊富な方が多いことを実感します。教授として参加する方、受講生として参加する方の双方あつて成り立つ活動ですので、これからも大いに利用していただきたいものです。

発行責任者 五十嵐京子
小金井市本町

☎ & FAX

（夜間）

